都會の兒童の長所と短所

光藤泰次郎

都會の子供の第一番の短所は、身體の強健ならざる點に存すると思ふ。言ひ換へて見れば、都會の子供は一般に身體が華奢で骨細で、顏面蒼白な點に在ると思ふ。田舍の子供の身體が強健で、見るから頑丈で、骨太で、顏面血色がよいのと正反對である。幼稚園の園兒でも小學校の生徒でも體格の嚴正なる檢査をしたならば、甲の部になるものは極めて少いであらうと思ふ。是等の現象は皆都會が子供を育つるに適當でない證據を示しつゝあるではなからうか。それから又現在東京に居て實業なり、官吏なり各方面に於て活動しつゝあるものは、生え抜きの東京子もあらんが其大部分は地方より入り込みたるものであらう。そして生存競爭場裏に於て、優者適者として存在して行くところから見れば、身體に於ても精神に於ても、必ず尋常に勝れたものを持つて居たに相違ない。然るに或は幼少なる子供を失ひて、非歎の涙に暮るゝものがある。或は澤山なる財產を持ちながら、讓るべき後繼者を失ひて、孤獨寂寞に暮らす者がある。かういふ人は誰もの知り人の中にも決して少くないをと信ずる。さて幼少者死亡の割合は都會と田舍とどちらが多いか、今統計が無いから詳細は分らぬが、どうも自分には都會の方が多いであらうと信ぜられるのである。都會の子供の身體が強健でないのは何故であらうか。いふまでもない都會の設備が子供を養育するに適當ならざる爲である。都會とても下町もあれば山の手もあり、一概にいへぬけれども、しかし都市の經營に市民の健康子供の建康などを腦中に於て計畫した設備の少いのは殘念至極である。道路にせよ、公園にせよ、も少し此等の點を考へて經營して貰いたいものである。

都會の子供の第二の缺點は根氣の缺乏である精力の不足である。都會の子供は何をさせても、甚だ氣がきいて居る。拔目はない。しかしそれは一時である。容易く出來上る事はそれでも間に合ふが

時間が二時間か、り三時間か、り四時間か、ると
いふ風に、永續するといふと、忽ち倦厭の情を起
して、中止し中絶し、捨て、顧みぬといふ風がある。目先がかはり仕事がかはれば、可成りやつて
のけられるが、幾時間も幾日もか、つて一つ事を
仕遂げねばならぬとなると、忽ちだれてしまふ、
忽ちいやになつて仕舞ふ。要するに精力が足りな
い。根氣が缺乏して居る。此の缺點はどこから來
るかといふに、一つは身體の强健ならざるをが原
因になつて居る。一つは刺激が多い此の都會生活
が確に原因になつて居ると思ふ。それであるから
都會の子供からは、才子は出る。氣のきいた人間
は出る、しかしどうもあまり大人物は出來まいと
思ふ。子供を持つた親達はよく注意をせんと、輕
薄なうすつぺらな才子を出すことになるであらう。
都會の子供の第三の短所は意志の力の弱い點にあ
ると思ふ。尤も特別な遺傳により、特別な家庭教
育によりて、例外は無論あるが、都會の子供一般
に通ずる性質としては、確に意思の力が弱い。彼
等に冷水浴、冷水摩擦の効能ある所以を說き、其
の實行を勸める。すると最初は皆やる。しかし風
邪をひいたをを口實に休む、入浴を口實に怠る。
海水浴をするからとてなまける。それで夏の間だ
けはどうやらつゞくが寒くなつて來ると止めて仕
舞ふものが多い。如何なる故障にも打勝つて一年
二年づつとつゞけて行くものは誠に少い。これは
たゞその一つの例に過ぎないけれども、一事が萬
事で、都會の子供は學問に對しても、柔道劍道等
身躰の修養に關するをでも、すべて此の流儀でや
る誠にどうも困つた者である、だから、家庭に於て
子供の教育を司る者と、學校に於て子供の訓練を
して行く者と共に一致協力して、此の缺點を補つ
て行くやうにせねばなるまいと思ふ。
都會の子供の第四の缺點は自然物に對する智識の
缺乏であると思ふ。近來教育の必要が漸く社會全
般に認めらるるやうになつて、多くの家庭に於て
もなかなか子供の教育には苦心されつゝあるやう
になつたのは實に喜ばしい次第でありますが、し
かしまだ十分でないやうに思はれます。それで子
供にもまだ自然物に關する智識が大分缺乏して居

るやうに思はれます。これは東京のやうな大都會に生活して居りますれば、日本人の常食たる米は何からとれるか、どうして作り出されるか、自然接する機會が少い。其の他絹布にせよ綿布にせよ、何からどうして作り出されるか、これも見る機會がない。田舍の子供が、足を運ばせ、目を動かすと、田も見る畑も見る、苗代田に種蒔の始から、發芽する具合から、だん〳〵のびて、早苗をとり、田植をやる、靑田になる、稻が穗を出す、花が咲く、だん〳〵みのる、之を刈り取る、之を始末して玄米にするまで、自然に觀察が出來るのとは大きな相違がある。

都會の子供の有する第五の短所は、智識の淺薄な點にある。觀察の皮想な點にある。田舍は刺激が少い目先がまいといふ弊はある、しかし一事一物に對する觀察知識は案外深い、然るに都會は實に刺激が非常に多い。目先に常にかはつて居る。それ故に一事一物に關してその觀察を深くして居るひまがない。甲より乙、乙より丙と始終注意すべき事物が變化して行く。それ故に物事を廣くは知つて居る。間口はなか〳〵廣い。しかしそれは皆淺薄の智識で、皮相の觀察で、奥行といふものが更にない。子供の將來の發達からいふと、都會の子供の間口だけ廣くて、奥行がない智識を持つといふをは餘程考へ者である。

都會の子供の有する第六の缺點は臆病といふ點にあるかと思ふ。これにも無論取りのけはありますが、都會には文明の利器が具つて居つて、夜も瓦斯燈、電氣燈、晝を欺くといふ有樣であるから光の缺乏して居る所即ち闇夜などは實に怖がるものである。勿論田舍でも闇夜を怖がりもし恐れもするけれども、どうしても必要上田舍では、膽力を練るやうに鍛練せられるのである、しかし都會に於てはかやうな鍛錬の機會がない。又人の多い賑な處で生育したものであるから、從來も矢張り賑な處に生活がしたくなつて、田舍の廣い天地に活動するとは好まなくなる。人の少い所に生活するのは寂寞で堪へられなくなる。まして海外へ踏み出して活動しやうなどゝいふ氣が起らなくなりは

しないか。兎に角私は都會が子供を大膽ならしめざるをいたく憂ふる者である。

以上私は都會の子供の有すると思ふ缺點短所を數へあげましたが、然らば都會の子供には缺點ばかりあつて、長所はないかといふに、必ずしもさうでない。都會の子供には又都會の子供の特徴たる長所があつて、とても田舍のもの、企及すべからざるものもある。

第一に都會の子供は奇麗で華奢で上品である。嘗て某學校の生徒をつれて旅行に行つたところが、田舍のお婆さん達が大勢集つて居て、批評していふには、まあ東京の子供は奇麗だこと。だれもかれも皆一つやうな顏だちだと、かやうな批評は至る處で聞くのである。顏だちが皆一樣に見えるのは、なれぬうちは我々でも西洋人が皆かはりがないやうに思はれたのと同じ心理作用であらう。兎に角都會の子供の奇麗で華奢で上品なことはとても田舍の子供の企及すべからざる處である。しかしこれが文明の進歩である。文化の致す所であると誇るをが出來るかどうかは疑問である。又これが未來の國民となつた場合に活動に於ても强健に於ても賴もしくあるかどうかは疑問である。

第二は氣がきいて居る點にある。一寸口をきかせて見ても、一寸何かさせて見ても、實に氣がきいて居る。この點ではとても田舍の子供は梯子をかけても及びもつかない。しかしこれも長所として誇るべきであるか否かは私は疑問であると思ふ。

第三都會の子供は音樂繪畫等に趣味を持つて居るこの點は多分教育が普及し、殊に中以上の家庭に於てさういふ趣味を持つて居る者がふえて來た爲であらうか。此の點に於ても田舍の子供に一頭地を拔いて居ると思ふ。

第四都會の子供の智識は廣い。日夕活動せる都會に生活して居るをであるから、文明的のいろ〳〵のをに關して耳に觸れ、目に觸れるをが多い。それ故にそれ等のをに關しては智識がなか〳〵廣い。しかし此の廣いといふをが果して誇るに足るべき性質のものたるや否やは疑問である。

これで都會の子供の長所を擧げ終つた。自分一己の觀察であるから、まだ漏れてる點も少くなから

うし。誤つてる點もあらう、それは大方の人の是正を仰ぐとして、以上短所長所を比較して見ると、都會の子供は長所よりは寧ろ短所の方が多い。又長所として列擧したところのものも、眞にどこまでも長所として行くべきものであるか否かは疑問のものもある。して見ると都會の子供の未來は餘程心配であつて、都會で子供を育てるとの是非得失は餘程攻究の價値があると思ふ。近來殊に都市が發達して來て、之に向つてどんどん人口が集注して、來るに至つては此の問題は實に忽にすべからざる大問題である。これらのとに就ては又更めて卑見をのべて見やうと思ふ

（完）

此頃の玩具

新奇な工夫の下に近來種々な玩具の發賣されることは教育上誠に嘉みす可きことであるが今是等の玩具を我幼兒教育と云ふ側から見るとまだ〳〵遺憾なことが多い。即ち近頃の新玩具の中で幼兒教育上に應用す可きものと云ふのは重に觀察的のもので練習的のものは殆んどないと云ふ位である。勿論幼兒の樣なかよわいものに充分な練習的玩具を工夫することは困難なものには違いないが夫れにしても半練習的のものならば隨分工夫の餘地がありそうに思ふが出來ないものであらうか

夫れで此頃出來る玩具で練習的のものと云ふのは主として小學校時代の兒童に適する樣である。其中でも三越の「飛んでこい」一名燕返しは坪井博士の考案で隨分面白いものである。少し熟練して飛ひ返つて來たのを自身で空中に受取られる樣になつたら所謂「貸しつこ」が出來て多少競爭的遊戯をすることが出來るだらうと思ふ。

明治家庭社の「明治獨樂」は雨降りなどの際には幼稚園の子供の觀察的玩具として適當であるが之も練習的玩具としては何うしても小學校以上の兒童に適するものである。

又此頃の舶來玩具中には色々幼兒の觀察的玩具として簡單で面白いものが大分ある樣である折を見て讀者に紹介し樣と思ふ。